

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	看護学概論	1単位30時間	1年前期	伊藤 美栄

授業のねらい

看護とは何かを学習するための導入として何を目的に看護は行われるのか、看護は誰に対して行われるのか、看護はどのような機能を果たすのか、それら基本的なことについて歴史や概念を学ぶ。

また、専門職業人としての倫理的態度を学び、看護に必要な基本的姿勢を理解する。

授業計画

第1回		看護とはなにか ①
第2回		看護の変遷
第3回		看護とはなにか ②
第4回	1時間	看護理論 ①
第5回		看護理論 ②
第6回		看護理論 ③
第7回		看護理論 ④
第8回		看護理論 ⑤
第9回		看護の対象としての人間 ①
第10回		看護の対象としての人間 ②
第11回		看護の対象としての人間 ③
第12回		看護の対象としての人間 ④
第13回		看護とはなにか ③
第14回		看護における倫理 ①
第15回		看護における倫理 ②
第16回	1時間	筆記試験

授業方法

講義

教科書

系統看護学講座 専門 I 看護学概論 医学書院

ナイチンゲール 看護覚え書き

看護の基本となるもの

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践

実践に生かす看護理論19

評価方法

筆記試験 86点 レポート 14点

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論 I	1単位30時間	1年前期	吉田 かおる

授業のねらい

看護援助の基本となる技術の概念を学び、看護を提供するうえでの安全安楽の重要性を理解し、その援助技術を学ぶ。また、看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、人間関係を成立・発展させるための知識・技術・態度を習得する

授業計画

第1回		看護技術のとは、看護技術の概念	
第2回		看護技術における安全安楽	
第3回		感染防止の基礎知識	演習
第4回		標準予防策とは	演習
第5回		ガウンテクニック	演習
第6回		消毒・滅菌について	演習
第7回		無菌操作・感染性廃棄物の取り扱い	演習
第8回	1時間	筆記試験	
第9回		コミュニケーションの意義と目的	
第10回		コミュニケーションの基本、構成要素	
第11回		コミュニケーションの技術①「聴く・話す」	演習
第12回		コミュニケーションの技術②「相手の気持ちを受け止める」	演習
第13回		コミュニケーションの技術③「自分から出る・自分を出す」	演習
第14回		コミュニケーションの技術④「相手を知り・相手を生かす」	演習
第15回		コミュニケーションの技術⑤「様々な環境・状況に対応する」	演習
第16回	1時間	事例分析	

授業方法 講義・演習

教科書 系統学講座 専門 I 基礎看護技術 I 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院
 仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス 医歯薬出版
 知識と実践がつながる看護学生のためのコミュニケーション Lesson メジカルフレンド社

評価方法 筆記試験・レポート

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論Ⅱ	1単位30時間	1年後期	吉田 かおる

授業のねらい

看護における観察の意味や意義を理解し、対象のヘルスアセスメントに必要なバイタルサインの観察やフィジカルアセスメントの基礎的な知識・技術を学ぶ
また観察されたことを記録、報告することの必要性とその方法を理解する。シミュレーション演習を通して、実践に向けた技術を習得する。

授業計画

第1回	ヘルスアセスメントとは	
第2回	バイタルサインの観察①体温	
第3回	バイタルサインの観察②脈拍・呼吸	
第4回	バイタルサインの観察③ 血圧	
第5回	バイタルサインの観察④ 血圧	
第6回	バイタルサインの観察⑤ 意識、 身体計測	
第7回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	
第8回	循環器系のフィジカルアセスメント	
第9回	乳房・腹部のフィジカルアセスメント	
第10回	筋骨格系・神経系のフィジカルアセスメント	
第11回	頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント	
第12回	観察・記録・報告	
第13回	バイタルサインの測定	演習
第14回	演習のまとめ	
第15回(1h)	技術試験	
第16回(1h)	筆記試験	

授業方法 講義・演習

教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院

評価方法 筆記試験（技術試験の合格を前提とする）

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論Ⅲ	1単位30時間	1年前期	麻生 雅美

授業のねらい

環境、活動、休息のニーズを理解し、ボディメカニクス技術を使用して、基本的欲求が満たされるよう対象者への安全・安楽な援助技術を習得する

授業計画

- 第1回 環境調整の意義
療養環境の整備
- 第2回 ベッドメイキングの方法と実際
- 第3回 ベッドメイキングの方法と実際
- 第4回 ベッドメイキングの方法と実際
- 第5回 活動の意義
ボディメカニクス
- 第6回 体位変換とポジショニング
- 第7回 体位変換とポジショニング
- 第8回 臥床患者のベッドメイキング
- 第9回 臥床患者のベッドメイキング
- 第10回 移動・移送の技術(車椅子、杖、歩行器、ストレッチャー)
- 第11回 移動・移送の技術(車椅子、杖、歩行器、ストレッチャー)
- 第12回 ベッドメイキングの技術試験
- 第13回 睡眠と休息の援助と褥法
- 第14回 睡眠と休息の援助と褥法
- 第15回 ベッド周囲の環境整備と安全確保
- 第16回 筆記試験

教科書 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院
基礎・臨床看護技術 医学書院

評価方法 筆記試験|技術試験

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論Ⅳ	1単位30時間	1年前期	吉田かおる

授業のねらい

衣生活、清潔のニーズを理解し、対象への配慮やプライバシーの保護に努め、基本的欲求が満たされるよう対象者への援助技術を習得する。

授業計画

第1回	清潔の意義、皮膚・粘膜の構造と機能	
第2回	衣生活の意義、病衣の条件・選択	演習
第3回	病衣・寝衣交換の実施	演習
第4回	清潔援助の効果、清潔援助の実際	
第5回	全身清拭の手順と根拠	演習
第6回	全身清拭の実施	演習
第7回	全身清拭の実施	演習
第8回	手浴・足浴の意義、手順と根拠	演習
第9回	臥床患者への足浴の実施	演習
第10回	陰部清拭の意義、陰部洗浄の手順と根拠	演習
第11回	口腔ケアの意義、手順と根拠、口腔ケアの実施	演習
第12回	頭皮・頭髪の清潔の意義、手順と根拠	演習
第13回	洗髪の実施(ケリーパッド)	演習
第14回	洗髪の実施(ケリーパッド)	演習
第15回	1時間 技術試験	
第16回	1時間 筆記試験	

授業方法 講義・演習

教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院

評価方法 筆記試験（技術試験の合格を前提とする）

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論Ⅴ	1単位30時間	1年	久村 里佳 吉田 かおる

授業のねらい

1. 栄養状態や摂取能力のアセスメント方法を学ぶ。
2. 摂食・嚥下訓練の概要を学ぶ
3. 非経口的栄養摂取の援助方法を学ぶ
4. 排泄の意義とメカニズム、アセスメント方法を学ぶ
5. 自然排尿・排便の援助を学ぶ
6. 排泄障害への援助を学ぶ

授業計画

第1回	食事援助の基礎知識		久村
第2回	食事摂取の介助		久村
第3回	摂食・嚥下訓練		久村
第4回	食事介助	演習	久村
第5回	非経口的栄養摂取の援助		久村
第6回	経管栄養	演習	久村
第7回	経管栄養	演習	久村
第8回	排泄の意義、排尿・排便のアセスメント		吉田
第9回	排泄行動に障害のある人の看護①		吉田
第10回	排泄行動に障害のある人の看護②		吉田
第11回	排尿障害のある患者の援助	演習	吉田
第12回	排便障害のある患者の援助		吉田
第13回	浣腸とオムツ交換	演習	吉田
第14回	浣腸とオムツ交換	演習	吉田
第15回	1時間 演習のまとめ		吉田
第16回	1時間 筆記試験		久村

授業方法 講義・演習

教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版 医学書院

評価方法 筆記試験

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	援助技術論VI	1単位30時間	1年後期	三浦 洋子

授業のねらい

対象の健康問題に対する生活上の問題を判断し、解決するための基本的能力育成のために理論的知識を用いて、問題解決的な思考を専門技術として活用する方法を習得する

授業計画

第1回	看護過程とは	
第2回	看護過程の各段階①	情報収集・アセスメント
第3回	看護過程の各段階②	関連図 看護問題の明確化
第4回		看護計画 実施・評価
第5回	紙上事例の展開	情報収集
第6回		一般状態(呼吸・循環・体温)
第7回		飲食・排せつ・清潔
第8回		更衣・姿勢活動・睡眠休息
第9回		環境・心理・社会・経済
第10回		学習・自己観
第11回		問題の明確化・問題リスト(優先度)
第12回		患者の全体像をつかむ・関連図
第13回		計画
第14回		実施 評価
第15回		看護要約(サマリー) まとめ

授業方法 講義・グループワーク

教科書 ヌーベルヒロカワ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践
 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院

評価方法 課題を総合的に評価する

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	基礎看護技術演習	1単位30時間	1年後期	坂無 涼子

授業のねらい

援助技術論で学んだ技術を応用し、対象の看護の必要性を導き、対象の状況や状態に応じて根拠をもとに安全・安楽に日常生活援助が行えることをねらいとする。
また、これらの学習活動を通して、「主体的な学習態度」「チームとしての協働」という態度領域を育てたい。

授業計画

- 第1回 場面を想定した日常生活援助：援助を習得し、人に教えられるようになる①
- 第2回 場面を想定した日常生活援助：援助を習得し、人に教えられるようになる②
- 第3回 1時間 技術試験
- 第4回 チームメンバーに教える・教えてもらう①
- 第5回 チームメンバーに教える・教えてもらう②
- 第6回 1時間 技術試験
- 第7回 チームメンバーに教える・教えてもらう③
- 第8回 チームメンバーに教える・教えてもらう④
- 第9回 1時間 技術試験
- 第10回 1時間 技術試験
- 第11回 事例患者の援助 ①
- 第12回 事例患者の援助 ②
- 第13回 事例患者の援助 ③
- 第14回 事例患者の援助 ④
- 第15回 事例患者の援助 ⑤
- 第16回 事例患者の援助 ⑥
- 第17回 事例患者の援助 ⑦

授業方法 グループワーク・演習

教科書 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

参考書 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 医学書院

エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図・疾患別看護ケア関連図 中央法規出版

評価方法 技術試験56/100 学習課題24/100 レポート20/100

分野	科目名	時間	時期	担当教員
専門分野	診療援助技術論 I	1単位30時間	2年前期	政岡 宮子 久村 里佳

授業のねらい

対象が安全・安楽に診療・検査、治療・処置が受けられるよう、基礎知識、援助技術を習得する侵襲の伴う治療であるためそこで起こりうる危険を予測しながら確実な準備、実施ができるための知識と技術を習得する。また、演習を通して対象への説明や配慮について考えられる

授業計画

第1回	皮膚・創傷を管理する技術	政岡
第2回	持続的導尿	政岡
第3回	持続的導尿	政岡
第4回	吸引・排痰ケア	政岡
第5回	酸素療法・人工呼吸療法	政岡
第6回	経口与薬 (1)与薬の基礎知識 (2)経口与薬の援助技術	久村
第7回	吸入・点眼・経皮的与薬の基礎知識・援助の実際	久村
第8回	直腸内与薬、塗布・摩擦法と援助の実際	久村
第9回	注射の基礎知識	久村
第10回	皮下注射・筋肉内注射の基礎知識	久村
第11回	皮下注射・筋肉内注射の実際	久村
第12回	静脈内注射・点滴静脈内注射の基礎知識	久村
第13回	静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	久村
第14回	中心静脈カテーテルの管理	久村
第15回	1時間 輸血の看護	久村
第16回	1時間 筆記試験	久村

授業方法 講義・演習

教科書 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 医学書院
 基礎・臨床看護技術 医学書院

評価方法 筆記試験

分野	科目名	時間	時期	講師名
専門分野	診療援助技術論Ⅱ	1単位30時間	2年前・後期	深川市立病院 臨床放射線技師 深川市立病院 臨床工学技士 深川市立病院 臨床検査技師 笹井 千景

授業のねらい

対象が安全・安楽に診察・検査が受けられるよう、基礎知識、援助技術を習得する

授業計画

第1回		診察における看護師の役割、診察時の援助		笹井
第2回		検査の目的と看護師の役割		笹井
第3回		検体の採取について		笹井
第4回		内視鏡検査時の看護		笹井
第5回		穿刺時の看護		笹井
第6回		静脈血採血について	演習	笹井
第7回		採血演習	演習	笹井
第8回		採血演習	演習	笹井
第9回	1時間	技術試験		笹井
第10回		学生同士の採血に向けて	演習	笹井
第11回		学生同士の採血	演習	笹井
第12回		放射線防護と看護		臨床放射線技師
第13回		ME機器の取り扱い		臨床工学技士
第14回		検体の採取について		臨床検査技師
第15回		生体検査について		臨床検査技師
第16回	1時間	筆記試験		笹井

教科書 系統学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

評価方法 筆記試験（技術試験の合格を前提とする）

分野	科目名	単位/時間数	時期	担当教員
専門分野	臨床看護総論	1単位30時間	1年後期	麻生 雅美

授業のねらい

健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護について学ぶ。

1. 各経過の概念と治療の特徴、患者のニーズと看護の基本について理解する
2. 出現している症状に対する援助に必要な知識を理解する
3. シュミレーションを通して対象に必要な観察、援助を学ぶ

授業計画

第1回		急性期・慢性期の経過をたどる患者の看護	
第2回		回復期・終末期の経過をたどる患者の看護	
第3回		発熱のメカニズムと看護	
第4回		呼吸困難・咳・痰のメカニズムと看護	
第5回		浮腫のメカニズムと看護	
第6回		腹痛・痛みのメカニズムと看護	
第7回		黄疸のメカニズムと看護	
第8回		心身に及ぼす影響	
第9回	1時間	シュミレーション演習事前テスト、オリエンテーション	
第10回		課題演習、関連図作成	
第11回		シュミレーション演習	呼吸器系疾患
第12回		シュミレーション演習	呼吸器系疾患
第13回		シュミレーション演習	循環器系疾患
第14回		シュミレーション演習	消化器系疾患
第15回		シュミレーション学習の振り返り	
第16回	1時間	筆記試験	

授業方法 講義・演習

教科書 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 医学書院

評価方法 小レポート、筆記試験で評価